

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent. File」では、時代の趨勢となっている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。



青森県八戸市にある根城よしだ歯科の開業は1971年。二代目の現院長・吉田洋一先生は、一時期、歯科医師になることに反発したものの、高校2年生の時には歯科医師への道を進むことを決意、岩手医科大学歯学部に入学しました。卒業後は東京・新宿の歯科医院で研鑽の日々を送る一方で、歯科衛生士として勤務していた現奥様の美沙子さんと出会い結ばれました。その後、実家を継ぐべく帰郷すると、かつて賑わっていた医院は危機的状態。そこから、二代目院長夫妻の医院再生への取組みが始まりました。さらなる発展に向けて歩み続ける吉田先生と、まもなく出産を迎える奥様に、復活への取組みと今までの努力、そして、これからの展望についてお話を伺いました。

「歯医者になんかなりたくない！」から一転 父の言葉で燃え上がった闘志

父が開業した根城よしだ歯科は、私が小さな頃からじつと身近にあり、無意識のうちにその影響を受けたのでしょ。幼少期の私は歯科医師に憧れを持っていました。そんなこともあって、中学1年生の2学期に父の勧めで埼玉県川越市の中学校に編入しました。当時は全寮制の中高貫の男子校だったのですが、同級生220人のほと

んどが医師や歯科医師の息子という特殊な環境でした。しかし、その学校に編入した当時の私は反抗期と言いますか、父の意向に反発していて、歯科医師にはなりたくないと思っていました。

その思いを抱えたまま高校2年生になり、進路について真剣に考える時期が来ました。そこで、自分の得意な「手先を動かす」「小さいものをつくる」「人に説明する」などが、歯科医師の適正であることに気づいたのです。これを父に告げると、「これから歯科医院が増え、20年後は厳しい時代になるぞ」と忠告されました。その言葉は、かえって私の挑戦心に火をつけ、歯科医師になろうと心に決めました。

新宿の歯科医院で 妻と運命の出会い 父の後を継ぐため、共に八戸へ

その後、岩手医科大学歯学部に入學し、卒業後は父の母校である日本歯科大学で研修後、東京・西新宿の高層ビルの中にある歯科医院に入職しました。そこは場所柄サラリーマンやOLさんが多く集まる医院で、患者さんの



根城よしだ歯科の復活へ 医院再生に向けた 二代目の取り組み

根城よしだ歯科

院 長 吉 田 洋 一 先生





を持つている歯科医院は少なく、新規の患者さんの獲得に役立ちましたし、当院の取り組みや予防歯科への想いを事前に伝えることができ、予防歯科を希望する患者さんが多く来院していただきました。

当院の患者さんは30〜40代の女性と、そのお子さんである小学生が中心です。最初はお子さんの診察で訪れ、当院を気に入ってくれたお母さんが来てくださるといパターンが多く、そういった30〜40代の女性はデ

ンタルQが高いです。そのTズに心え、ホワイトニングや審美といった診療科目も追加していきました。お母さん方の間での口コミというのも、患者さんの数が増えた大きな要因だと思います。

スタッフに関しては、最初は元々働いていたスタッフを教育していく1年でした。徐々に患者さんが増え始め、スタッフを増やそうと思いましたが、歯科医師も歯科衛生士も、どちらも志願者は来てくれませんでした。歯科衛生士である妻がいたおかげか、歯科衛生士は早い時点で2人ほど来たのですが、そこから3、4年は求人を出しても誰も来ない状態が続きました。

そこで、当時は八戸市に歯科衛生士専門学校が

無かったので青森市の歯科衛生士学校に直接出向き、求人票だけではなく、どのようにして教育していくかを記載した資料を渡してアピールしました。そうしてやと来てくれた人目を育てたことが、その後のスタッフが集まってくいきっかけになりました。一人目をしっかり育てることで、当院における教育の成功例ができ、それを見た人が「こんな素敵な先輩みたいになれるんだ!」と思ってくれて、入職してくれるという良い循環ができていきました。

根城よしだ医院の大きな特徴 「スタッフ教育」「トリートメント コーディネート」「情報発信」

今、当院は予防歯科中心に切り替えて10年目を迎え、歯科医師4名と歯科衛生士7名で運営しています。スタッフの人数・教育体制が整い、患者さんの数も増え、経営はおかげさまで順調だと思っています。

予防歯科に取り組んでいると、自然と患者さんの歯科への関心も高まり、より良いものを「より良い状態に」との思いから、補綴をオールセラミックにするなど、自由診療を選択していただく患者さんも多くいらっしゃいます。そうした人が増えたことも安定した経営に繋がっています。

現在でもスタッフ教育には特に力を入れています。私や妻が東京・九州など全国で開催されるセミナーへ出向き、新しい情報を常にスタッフとシェアし、良いものはどんどん導入するようにしています。また、幹部スタッフにも研修に参加してもらい、次々に他のスタッフに浸透させていく、学びの共有化、理念浸透を重要視しています。そのことは、私も幹部スタッフもセミナーを受ける時から、他のスタッフにいかん伝えるかを意識して真剣に受講でき、また他人に伝えることで自分の理解が深まるといふメリットがある

からです。

また、当院には歯科衛生士や歯科助手のほかに、トリートメントコーディネーターという役割のスタッフを配置しています。トリートメントコーディネーターの役割は、患者さんの来院理由や悩みや希望、歯の状況をヒアリングしたり、治療の説明をしたりという、いわゆる患者さんとの「お話し係」で、医院と患者さんの架け橋になる重要な存在です。私が帰ってきた直後からこの役割を取り入れました。豊富な知識が必要なポジションなので、歯科はもちろん、心理学やカウンセリングなども積極的に勉強してもらっています。今在職しているトリートメントコーディネーターの1人は、私より当院の勤務期間が長く、何千人もの患者さんとお話をしてきた経験もあって、歯科について本当に詳しいです。初診の患者さんには、最初に彼女達と話をしてもらっています。患者さんの本音や、今までの歯科医院での嫌だった経験などを彼女から伝え聞き、それを参考にして、私たち歯科医師、歯科衛生士は患者さんに接しています。

患者さん向けには、ブログや夏祭りやクリスマス会などの色々なイベントを利用しての情報発信と、毎月の予防歯科セミナーを開催しています。このセミナーでは新規の患者さんを対象に、むし歯と歯周病の原因とその予防策「などの内容を1時間ほどレクチャーします。3年ほど続けており、毎回約15人前後の患者さんに来ていただいています。多くの患者さんに出席していただき、予防歯科への関心が高まってきたのを感じます。

これからの目標は小児専門分院と 生涯働ける最高のスタッフ待遇

将来の目標は、すぐ近くに小児専門の分院を作ることです。それができたら、この当院では40〜60代の大人を

また、スタッフには生涯働

に、年を
て、
ートに
しい
ていま
8歳
を

歩み続けた。それは同業として、本当につらい時期ではありま

吉田 洋一(よしだ よういち)先生 プロフィール
1974年青森県八戸市生まれ。岩手医科大学歯学部卒業。医療法人
恵洋会(新宿)での勤務を経て2006年、根城よしだ歯科副院長に
就任。2012年、医療法人スマイルクリエイト理事に就任し、現在に
至る。八戸歯科衛生士専門学校講師、鶴見大学歯内療法学講座非常
勤講師。

就職は、歯科衛生士専門学校を卒業して

衛生士は、患者さんの口

より良いケアに繋げるため

楽しくもやりがいのある充実した毎日

坂本 私たちは同期に入職し、根城よしだ歯科で働き始めて3年目です。私は早生まれなので、年齢は黒澤より一歳下なのですが、学年は同じです。

黒澤 卒業した歯科衛生士学校は別々のところですが、私は高校生のときに八戸に新しく歯科衛生士専門学校ができて、そこに入学しました。小さな頃から抱いていた「歯科医院のお姉さん」への憧れから入学し、そこで勉強や実習をこなしていくうちに、歯科衛生士になりたい、という気持ちをはつきりと自覚するようになりました。



坂本 私の場合は、中学生のときに自分のなりたい職業を調べる機会があり、そこで歯科衛生士という職業を知りました。患者さんと身近にコミュニケーションを取れることに魅力を感じ、私にあつている気がして目指すことにしました。患者さんの一番身近なパートナーとして、変化を感じられることが、今仕事をしていても楽しいです。

黒澤 毎日大変ですけど、すごくやりがいがありますね。当院は患者さんとのコミュニケーションを大切にしているので、そこに多くの時間を費やして、患者さんとの信頼関係

を築きながら診療をしています。患者さんの口腔内の変化はもちろん、打ち解けていく表情の変化を見るのはとても楽しいし、嬉しくなります。

坂本 当院の患者さんは子どもからお年寄りまで幅広いのですが、私は特に30代、お年寄りの患者さんを診るのが好きです。診療では、患者さんがケアを上手にできないところがあっても、必ずできていくことを褒めることを意識しています。褒めて差し上げると患者さんも頑張らなきゃという意識が高まって、次も来たいという気持ちになつてくれます。

それぞれが目指す「小児予防」「後輩の育成」

黒澤 これからの目標としては、私は小児の患者さんを診ることが好きなので、小児専門の歯科医師と小児の予防歯科にもっと積極的に取り組みたいと思っています。また、世間では歯科衛生士という仕事の認知度がまだまだ低いように感じられます。この仕事の魅力を広く伝えられるような歯科衛生士になりたいです。

坂本 当院はとてもスタッフ待遇がよく、セミナーを多く受けさせてもらっています。そうして勉強に取り組むことで、歯科衛生士としての技術・知識を向上させていきたいです。さらに、これから後輩も増えていくと思うので、その育成にも力を入れたいと思っています。

